軍艦須磨製造一件

1360

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参謀部長

第一課

承認

秘書官

副官　按合

廿三年九月　日

大臣　次官

主務　第二局長　第一局長　会計局長

第二課長　第一課長　第三課長　第二課長

発付　十月十一日

主務　聯帯

訓令案

明治二十四年度ニ於テ巡洋艦壱隻其府ニ於テ製造着手セシムヘキ内定ニ付別紙大体計画案ニ基キ詳細計画ノ図案ヲ製シ入費概算工事日数等取調申出

官房第三二七号

宛

1361
1362

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

月十八日

上局

聯帯

第二課長

第一課長

第三課長

第一課長

第二課長

隻其府ヘ於テ

別段大体

ノ図案ヲ

取調申出

1361
1362

委細之義ハ此局ニ於テ御聞置

候之別段別図ヲ以テ

致し度候也

沖守固

第一局御中

へ七　但兵器ニ係ル事項ハ造兵廠ト協議スヘシ

明治廿二年九月十日　海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官宛

官房第二一七〇ノ二　訓令按

前紙之通横須賀鎮守府[司令長官]ヘ及訓令候条

右之通心得ヘシ

明治廿二年九月十日　海軍大臣

造兵廠長宛

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第壹条　文武官ハ正装ノ際特殊ノ装具ト帽小帽
口径「ガットリング」砲口径十一密米トアルハ八密米ノ
誤ナラン改正アランヿヲ望ム
第弐　艦ハ西國軍艦「フレイナ、ラゼン」ト号ニ装置シ
タル「フトムツレ、ビル」式ヲ採用セシヿヲ望ム
第三　電燈ハ好位置ナケレハ後方ナキ来ベリ好位置
ヲ撰ミ之ヲ上甲板ニ据ヘシヿヲ望ム
右之外重要明細書ニ對シ異存ナキ此条件
右及御回答候也
明治二十二年九月卅日
海軍大臣伯爵西郷従道

1364
1365

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ而小銃
八寄米之
ニ装主し
すべり好位並
し村象氏
元
県太郎

1364
1365

右小銃ハ至極簡便ニシテ中郵式小銃ノ如キ
不遠其ニ及ハサル小銃ハ至極良ク戦
砲ト云フヘシ

艦ハ主兎ニ角修正ヲ要ス
電氣信置ハ追テ詳細申述ヘシ
將所調フル見込ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍参謀本部

1366

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

新造計画ニ係ル巡洋艦重要明細書

一 垂直線間長	三百呎
一 最大幅	四拾呎
一 吃水 艏艉	拾五呎 拾七呎
一 排水量	凡弐千八百噸
一 速力	二十海里以上

兵器

一 六吋速射砲（拾五珊智米突）	六門
一 十二珊智米突速射砲	六門
一 六斤新呆氏速射砲（五十七密里米突）	拾門
一 三斤保氏速射砲（四十七密里米突）	六門

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、廿銃口径改良ガツトリング砲　四門

一、水雷発射管　六門

該船体ハ悉ク鋼鉄ヲ以テ之ヲ作リ工事ノ実施セラルル限リハ本部後部ヲ全通シテ二重底トス

防禦甲板ハ船首ヨリ船尾ニ至ル迄傾斜側面ヲ有スル様取付ケルモノトス尤其中央部ニ偏ル方ハ厚一吋トシ其傾斜ノ処ハ厚三吋トス

機関室並後ノ甲板面ハ水線上ヨリ二呎乃至三呎ノ高サニ取付クベシ而シテ該甲板面ト防禦甲板トノ間隙ハ之ヲ浮体ト為シ専責特許ニ係ル燃料、石炭、及貯物ヲ以テ填充セシムルモノトス

定規石炭ノ供給量ハ凡二百噸トス尤防禦甲板傾斜

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ處ニ在テ其甲板頭上ノ水平ニ至ル迄專責特許燃
料ヲ堆積スルモノトス但シ石炭庫ノ總容積面ハ六
百噸ヲ容ル、ニ足ルベカリナスモノトス

機械ハ縱動三回膨脹機關ノ二對ヲ据付ルモノトス

六吋速射砲

該砲四門ハスポンソンニ又貳門ハ船首樓ト船尾樓下ニ裝
置スルモノトス

十二珊智米突速射砲

該砲六門ハ上層甲板ニ裝置スルモノトス

六斤速射砲

該砲貳門ハ船首樓下ニ又貳門ハ船首樓ノ尾端上ニ
裝置スルモノトス而シテ又貳門ハ船尾樓下ニ又貳門ハ船

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

尾楼ノ前端上ニ又弐門ハ彈床ノ上ニ装置スルモノトス

該砲弐門ハ吊床ノ上ニ又弐門ハ右下戦闘楼ニ装置ス
ルモノトス

三斤保氏速射砲

五銃口至改良ガツトリング砲

該砲弐門ハ右上戦闘楼ニ装置スルモノトス

六吋及十二珊智米突砲ハ砲手ヲ保護スルカ為メ四吋半ノ
鋼鉄製楯ヲ備ヘ又其他ノ諸砲ハ右同様ノ目的ニ依リ軽
薄ノ楯ヲ備フルモノトス

水雷発射管

該管ノ壱個ハ艦首ノ方ヨリ直ニ発射スヘク取附ケ又壱
個ハ右中甲板ノ艦側ニ取付ケルヲ機関室ノ前位ニ在ル
水雷室ヨリ発射スヘクナスモノトス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

又該管ノ壱個ハ船尾ノ方ヨリ直ニ發射スベク取付ケ又壱個ハ右中甲板ノ舷側ニ取付ケ以テ機関室ノ後位ニ在ル水雷室ヨリ發射スベクリナスモノトス

探海電燈

該燈貳個ハ前船橋ニ又貳個ハ後船橋ニ据付ルモノトス

該船ハ左ノ端艇ヲ装載スルモノトス

九、一五〇米突「スチームカッター」 壱艘
九、一五〇米突「ピンネース」 壱艘
八、五〇〇米突「カッター」 貳艘
八、二五〇米突「ギッグ」 貳艘
四、三〇〇米突「ヂンギー」 壱艘

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

供覧
次官
閲覧済
閲覧済

呉鎮第五〇八八號

第二局長代

巡洋艦壹艘卅年度ニ於テ製造之義御達ニ依リ方法書并撥形進達

卅年度ニ於テ巡洋艦壹艘当府ニ於テ製造ノ義昨年十月官房第二二二七號御達ニ依リ別紙之通取調候ニ付圖案及方法書并撥形相添此段進達候也

明治[illegible]

爵仁禮景範

海軍
山資紀殿

此計画ハ採用ナラズ

第二課
第一課
第二課

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

供覧
次官
閲覧済
閲覧済

横鎮第五〇八八號

第二局長代

巡洋艦壹艘廿四年度ニ於テ製造之
義御達ニ依リ方法書并摸形進達

廿四年度ニ於テ巡洋艦壹艘當府ニ於テ製造ノ義昨
年十月官房第三二七號御達ニ依リ別紙之通取
調候ニ付圖案及方法書并摸形相添此段進
達候也

明治廿三年十月二十二日
横須賀鎮守府司令長官子爵仁禮景範

海軍大臣子爵樺山資紀殿

第二課 第一課 第三課

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二十一節　巡洋艦壹隻廿四年度起工製造計畫

構造ノ要目

摘要	記事
乗組定員	三百三十八人
艦種及材質	巡洋艦鋼製
寸法	長百四メートル　巾十三メートル二百ミリ　深九メートル二百八十ミリ
吃水及排水量	平均吃水五メートル二百八十ミリ　排水量三千七百噸
檣数（ミリタリーマスト）	貳本
速力	弐拾壱節
端舟	七艘
汽機関	縦動三回膨脹機関四基馬力壱万弐千
汽罐	改良ロコモチーブ形　拾壱個
艦砲	十五サンチ速射砲六門　十二サンチ速射砲拾門（四）　毎壱門ニ付弾薬百五十發　空砲薬廿發

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

野砲	四斤砲 弐門
速射砲	五十七ミリ速射砲 十門 / 四十七ミリ速射砲 六門 （各壱門ニ付 弾薬四百発 実包薬百〇六発）
兵 機砲	ガットリング砲 四門
器 魚形水雷発射管	カネー式 六臺 （入費ノ都合ニ依リ四基トス）
電気燈	マンジン射光 四個
製 製造費始支出	起工前十二ヶ月
造 起工	起工ヨリ公試運轉マテ 三十六ヶ月
日 公試運轉	公試運轉後十二ヶ月
数 製造費支出終結落成	
製造場	横須賀鎮守府造船部
経 船体費	金七拾七万七千円
費 汽関費	金六拾八万円
合計	金百四拾五万七千円

石炭 三百噸 飲水 十四日分

石炭庫容積六百噸 糧食 三ヶ月分

兵器費概算九十七万円

1378 1377 1376

[illegible]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1378 1377 1376

前条ノ趣取調ノ処廿四年度追加案提
三千五百噸ニ未満洋艦ハ百三十九万七
千円ニシテ六万円ノ差ニ有之ル
然ルニ以千吉噸ノ三千未満洋艦ハ大体計画ニ
既キ篤ト吟味致シテ噸数ヲ増シ以千八
百噸位イニナサレハ不相叶故ニ二千未満
洋艦ノ兵器費ノ内ヨリ見積リ四万円ヲ減シ
此方艦ノ方ヘ加フルモ左スレハ前項差ハ
十六万円ト相成ル

第二局

小計円

1378

修繕費及蒸気営業ノ金額ト
大正二年度出納決算ニ於ケル同期
合計ノ差ヲ以テ示セシモノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二局

閲覧済

供覧

横鎮第二六〇號

第二局長代

巡洋艦飛龍進達之件

曩ニ本廳ヨリ巡洋艦ヲ長崎ニ於テ製造

方ノ儀申出二十七年五月十五日計畫進達セシ圖

案及方法書等ハ更ニ本年十月七日横鎮第五〇

八號ヲ以テ要求書返戻相成候ニ付該艦飛龍

製造ノ事ヲ取消候也

明治二十七年十一月二十六日

横須賀鎮守府司令長官代理

海軍少將 相浦紀道

海軍大臣子爵樺山資紀殿

横須賀鎮守府司令長官代理之印

第二課

海軍

1379

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参謀部長

秘書官

浄写　校合

発付　三月廿日

主務　聯帯

大臣　次官

廿四年三月　日

主務　第二局長

第二課長　代

第一課長

第三課長

決裁済

官房第六六七号

横須賀鎮守府ヘ訓令案

本廿四年度ニ於テ三等巡航艦一隻其府造船部ニ於テ製造セシムヘキニ付別紙大体計画図及ヒ要領書ニ基キ詳細計画ヲナシ

入費概算並ニ本年度制竣功期限取調申出スヘシ

海軍大臣　官

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヘシ

但客年十月横鎮第五〇八八号ヲ以テ進達ニ係ル

計画ハ採用セス

明治卅四年三月廿五日　海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官宛

官房第六六七号ノ三　造兵廠ヘ訓令案

巡航艦製造ノ義ニ付別紙図面横須賀鎮守

府ヘ訓令候条大体計画図及要領書

下付ス

明治卅四年三月廿五日　海軍大臣

造兵廠長宛

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三等巡洋艦要領

艦種	巡洋
艦質	鋼
乗組人員	弐百九拾六人
垂線間ノ長サ	九十六メートル〇〇〇
最大幅	拾弐メートル弐〇〇
吃水 前	四メートル四〇〇
吃水 平均	四メートル七〇〇
吃水 後	五メートル〇〇〇
排水量	弐千五百トン
速力	弐拾壱海里　自然通風ニテ速力拾九海里以上
石炭（四メートル七〇〇吃水ニテ）搭載ノ	弐百五拾噸
石炭容積	五百噸　五百五拾噸以上ノ容積ヲ致ス

兵
室

1384　1383 1382

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三等巡洋艦要領

艦種	巡洋
艦質	鋼
乗組人員	弐百九拾六人
垂線間ノ長サ	九十六メートル〇〇〇
最大幅	拾弐メートル弐〇〇
吃水 前	四メートル四〇〇
吃水 平均	四メートル七〇〇
吃水 後	五メートル〇〇〇
排水量	弐千五百トン
速力	弐拾壱海里 自然通風ニテ速力拾九海里以上
石炭 吃水ニテ四メートル七〇〇ノ	弐百五拾噸
石炭容積	五百 拾海里ノ速力ニテ六千弐百五拾節

1384 1383 1382

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

速力拾九海里以上

テ六千弐百五拾郎

實

[illegible]二六八五[illegible]期[illegible]

1384 1383 1382

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十九

防禦甲板 平坦部 貳吋半ミリ
傾斜部 五拾ミリ

斥候塔 五拾ミリ

糧食 二ケ月分

飲水 十四日分

推進器 三螺旋

兵器

十五拇

拾五サンチメートル速射砲 貳門 船首楼及船尾楼ニ搭載ス

仝 弾薬 壱門ニ付 百五拾発

仝 空砲薬 仝 貳拾発

十二拇

拾弐サンチメートル速射砲 六門 中甲板上両舷側ニ搭載ス

仝 弾薬 壱門ニ付 百三拾発

仝 空砲薬 仝 貳拾発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三斤速射砲	拾貳	門	船首楼ニ貳門船尾楼ニ貳門両舷砲床ノ上ニ四門但首楼又船尾楼ノ下部上甲板ニ各貳門宛搭載ス
仝 弾薬	壱門ニ付 四百発		
仝 空砲薬	仝 百〇六発		
小銃口径機砲	四	門	檣楼上ニ搭載ス
仝 弾薬	壱門ニ付 千五百発		
水雷發射管	四三	門	船首尾ニ壱門宛両舷ニ貳門搭載ス 但シ魚形水雷ハ壱門ニ付弐個トス
電気燈	四三	基	前後両船橋ニ据付
戦闘檣	貳	本	
端舟			
小蒸気艇 八メートル五〇	壹	隻	外装水雷ヲ装備スル
ピンネース 九メートル七五	壹	隻	
カツター 八メートル五〇	貳	隻	
ギグ 八メートル五〇	貳	隻	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ディンギー四メートル三〇〇　壱　隻

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参謀部長

第一課

秘書官

浄書　校合

発付　六月廿日　聯帯

主務

明治廿四年五月十五日

主務

大臣

次官

第一局長

第二局長

第三局長

第一課長

第二課長

第三課長

第一課　課長

吉嶋

三等巡洋艦製造訓令案

横鎮第一三二八号ノ二具申ノ趣聞届候条

三等巡洋艦製造計画案ニ據リ船体

機関製造費及定備品購買費トシテ

ヲ以テ金百九万七千七百六拾八円ヲ該廠営業費

官房第一九三六号

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

トミ製造方省ニ支ヘミ

明治廿四年六月三十日

大臣

横須賀鎮守府司令長官宛

附記

三等巡洋艦當初計畫ニ對スル船体機關ノ製造

費豫算額ハ金百万円ノ豫算ナリシモ今度其他

計畫上豫算外金九万七千七百弐拾円ヲ超過シタル處

其等巡洋艦ノ豫算額ヲ以テ補塡シ

他ノ三等巡洋艦之不足ヲ補ヒタル程任セタル也

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二局

横鎮第一二二八號ノ二

第二課廻

三等巡航艦計画進達

本年度ニ於テ三等巡航艦壱艘當府ニ於テ製造セシメラルベキニ付詳細計画スベキ旨本年四月官房第六六七號御達ニ依リ別紙ノ通計畫致シ其茶圖按及方法書並模型相添進達致候也

明治廿四年六月五日

横須賀鎮守府司令長官子爵仁禮景範

海軍大臣子爵樺山資紀殿

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三等巡洋艦製造計畫

構造ノ要目

名称	摘要	記事
乗組定員	二百九十六人	
艦種及材質	艦種巡洋、質鋼	
寸法	全線間長九十三メートル五百 最廣巾十二メートル二百	
吃水及排水量	最大吃水五メートル 排水量二千七百噸	
防禦甲板	平部二十ミリ 斜部五十ミリ	
石炭量	四、六米突吃水ニテ二百噸 炭庫容積ニハ六百噸	
檣数	戦闘檣弐本	
速力	二十海里	
端艇	八、五米突小汽艇外六艘	八、五米突小汽艇一 九、五ピナース一 八、五カッター二 八、二五ギグ二 四、三ジンギー一
機（汽機）	竪置四聯三回膨脹機、二基	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

済算…

	汽罐	ロコモチーブ形八個、補助壹個	
兵器	艦砲	十五糎速射砲 二門 十二糎速射砲 六門	壹門ニ付 弾薬 百三十発 空砲薬 二十発
	速射砲	保式 三斤砲 十二門	壹門ニ付 弾薬 四百発 空砲薬 百六発
	機砲	峩式小銃口径 四門	壹門ニ付 弾薬二千五百発
	魚形水雷発射管	二個	壹門ニ付 水雷四個
	電氣燈	三個	
製造日數	製造費支出始	廿四年度	
	起工	廿五年度	
	蓋終結落成	廿八年度	
	製造所名	横須賀鎮守府造船部	
	経費 船体機関費	金百五萬壹千五百円	船体 五拾六万七千円 機関 四拾八万四千五百円

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参謀部長

第一課

主事

浄写　校合

發付　一月廿四

廿九年一月廿三日　主務

第二局長

立案者　第二課長　第三課長　第一課長

大臣　次官

官房一五八号

別訓令案

三等巡航艦艤装部別紙図面六葉ノ通改正リ保存取計フヘシ

明治二十九年一月廿四日　海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

著

長 長 長

第二課廻

業ノ通リ

本件ハ無業上ノ関係モ之ナキ旨返庭スルヤ

一月廿二日 参謀部第一課

1393
1394

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附記

本件改造ノ件横須賀鎮守府ト協議ノ処之アリ

上差支無之且製造費節約ノ差響無之

右申越候ニ付御裁可

別紙図面六葉ノ扣ハ第二局第二課ニ[illegible]格納

二月十六日技手常田ヨリ收ム

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部長代

主事

廿九年四月六日

浄写

校合

發付

四月九日

主務

第二局長

立案者

第二課長

大臣

次官

別紙指令案

横鎮第一四五九号乙号巡洋艦低壓汽筒壹個ニ改ムル件認許ス

明治廿九年四月九日

官房第八四二号

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

横鎮第一四五九號

低壓瀉氣箭壹個ヲ廢止相成度義上申

乙號巡洋艦瀉氣機ニ低壓瀉氣箭ハ元来弐個ノ御計畫ニ有之候処弐個共ハ瀉氣機ノ「ロビーエンヂ」ナルモノノ長サヲ要シ随テ瀉氣機ハ「フレーム」艦尾狭隘ノ処ニ至リ甚シク構造ニ無理ヲ生シ且ツ其製造モ容易ナラ無之ニ付右低壓瀉氣箭ハ壹個ニ御訂正相成候様致度此段上申候也

明治廿五年四月四日

横須賀鎮守府司令長官男爵赤松則良

海軍大臣子爵樺山資紀殿

第二課処

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

閲覧済

大臣

参謀部長

第一課

次官

主事

供覧

参謀部

横鎮第三一六七號

第二局長

乙號巡洋艦船渠骨材敷振

方着手御届

昨廿四年六月庶第一五三六號ヲ以テ御達相成タル乙號巡洋艦船渠骨材敷振方本月六日着手致シ候間此段及御届候也

明治廿五年八月八日

横須賀鎮守府司令長官男爵井上良馨

海軍大臣子爵樺山資紀殿

第二課

海軍

1399

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参謀部長

第一課

主事　浄寫　校合

發付　八月廿日

立案者　第二課長　第三課長

廿五年八月　日

主務　第二局長

決裁済

大臣

次官

官房第一九七三号

別紙令案

横鎮第三四三一号乙号巡洋艦ニ錨種
類改定ノ件認許ス

明治廿五年八月廿日

1400

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘鎮第三二三一號

第二課廻

乙號巡洋艦用ミート錨種類改定之上申

乙號巡洋艦用ミート錨之義製造方法書ニ

[illegible]候處ホール(HALL)式

成績ヲ博シ候モノ故

改度依テ御参考ノ

為メ報告書及圖

[illegible]也

[illegible]官男爵赤松則良

[illegible]景範殿

別紙圖面及報告書

[illegible]

海軍

1402
1403

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

横鎮第三二三一號

第二課廻

乙號巡洋艦用ボート錨種類改定之上申

乙號巡洋艦用ボート錨之義製造方法書ニハ
アドミラルチー形ト有之候處ホール（HALL）式
錨ハ近頃英國ニテ良好ノ成績ヲ博シ候モノ故
此式ニ御改定相成候様致度依テ御参考ノ
為メ「ホール」錨試驗ニ付テノ報告書及圖
面相添此段上申仕候也

明治三十五年八月十一日

横須賀鎮守府司令長官男爵赤松則良

海軍大臣子爵仁禮景範殿

1402
1403

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

參謀部長 中牟田

第一課

主事

淨寫

校合

主務

發付 四月 日

立案者

第二課長

第一課長

第三課長代

第二局長

廿六年四月 日

大臣

次官

訓令案

乙号巡洋艦水雷發射管位置及前部後部火藥庫別紙図面ノ通改正スヘシ

明治廿六年四月十九日 海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官宛

官房第一の二一号

1404

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

別紙図面相添兼而第二隊指揮
被成下度候

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課

參謀長
第一課長
第三課長代

第二局長

乙号海岸砲火薬庫改正之義別紙之通相成度
[illegible]部ニ於テ中牟田[illegible]中部[illegible]之意見[illegible]
被成之意見ヲ回示有之度候也

廿六年四月十七日

参謀本部
横須賀造船部長照会ニ係ル意見回示之趣
了承候也

四月十七日

中牟田海軍軍令部長

[illegible]参謀本部局長殿

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

受 艦造一第六八號ノ六

乙号巡洋艦ニ於テ魚雷發射管位置変更ヲ行フ當業者改造云々ノ義ニ付御申越ノ趣承知右ハ水雷發射管ヲ後部ニ移シ又水雷頭部格納所ヲモ後部ニ移シ及引テハ火薬庫ニ多少ノ変更ヲ來シ及自然変更ノ際該図面通リ改造ニ依リ為メ燈火其他ノ部分ニモ要變換有之候故其照燈ノ次第ニ有之候

右及御答候也

卅七年四月十日

横須賀造船部 志道

佐双第二局第二課長殿

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

課長

要港達一第六八号ノ四ノ件ニ乙号巡洋艦水雷発射管信管ニ載

ノ附属ハ製図不備ニシテ図面中前後火薬庫設置ノ図

ニ於テハ右水雷発射管ニ関係ナキモノトナラ有之右ハ如何ニ

ノ意見ニ依ルモノナルヤ至急回答明示アリタシ

廿六年四月十日

課長

横須賀造船部長殿

発済

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二局長

第二課長

第一課長

乙号巡洋艦水雷発射管位置変更ノ義別紙ノ通横須賀造船部長ヨリ申来ルニ付テハ當部ノ意見左ノ如指令案ヲ以回示有之度

廿六年十月十四日

参謀

乙号巡洋艦図面ノ件了承ス

別紙返却也

明ノ十月

[illegible]郎

海軍第二局長殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二局長

第二課長

第一課長

乙号巡洋艦水雷発射管位置変更ノ義別紙ノ通横須賀
造船部長ヨリ申来候ニ付テハ貴部ノ意見承知
致度呈覧ノ図面添此段照会候也

廿六年四月十日

三局長
艦政部長

[illegible]

[illegible]

海軍

第一課

1409
1410

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

受 横造一第六八號

昨年度起工ノ和成丙号巡洋艦水雷発射管
ヲ各部ヨリ改造部ヘ移スコトニ変更シ候旨過日及照会候
處若シ乙号ニ有之モ右同様変更ヲ施サレ候様致度
右ハ未タ該工事ニ著手セサル際ナレハ至急御回答ニ
相成度且右変更候ハハ図面及比較表
果ニテ右改造シ候見込モ候ハハ至急御申越相成候様
致度此段及照会候也

廿六年四月八日

志道横須賀鎮守府造船部長

佐双第二局第二課長殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp